

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成25年5月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694400013
法人名	株式会社 ハヤシ商事
事業所名	ガーデンハウス忠元
所在地	鹿児島県伊佐市大口里1564番地5 (電話) 0995-29-5007
自己評価作成日	平成25年2月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、伊佐盆地の山並みと市内の街並みが眺望できる高台にあり、建物の周囲は一面に芝の広がる庭園です。また、近くには桜名所の忠元公園があります。このような恵まれた自然環境を利用して、天気の良い日は外気浴や散歩を行っています。建物は太陽光発電を設置してオール電化を導入しています。窓ガラスは2重、床は3層張りで寒さ暑さ対策が施されて快適で過ごしやすい構造となっています。健康保持と一日のコミュニケーションの始まりの場として、毎朝健康体操を行っています。また、各居室にはナースコールを設置して入居者様が安心して生活していただけるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【立地・環境】

・事業所は眺望のよい高台にあり、桜の名所である忠元公園のすぐ近くに位置し、日常的に散歩に出かけたり、ゲートボールに参加するなど積極的に地域交流を図っている。冬の寒さの厳しい土地であるため、窓や床に工夫が凝らされ過ごしやすい環境に配慮している。

【人格の尊重とプライバシーへの配慮】

・職員は入居者の思いや意向に耳を傾け、人生の先輩として言葉遣いや対応に気を配り接している。また、『個人情報に関する基本方針』を基に『個人情報保護会議』を開催し、そのほかにも接遇研修に参加し職員に伝達するなど、入居者一人ひとりの人格を尊重したケアに努めている。

【食事を楽しむ支援】

・事業所は家庭的な雰囲気を大切にしたいと考えており、入居者に食べたいものはないか尋ね、その日のメニューを決めている。調理の下ごしらえや食卓の準備など一連の工程を入居者と職員が共に行ない、一緒に食事を食べ楽しい時間を共有している。行事食にも力を入れており、そば打ちやギョーザ作り、誕生会の手作りケーキなどでもてなし、楽しい時間を過ごしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼時理念の唱和を行い、理念を常に意識できるようにしている。	職員の意見を基に作成した理念を玄関と職員室に掲げ、職員のネームプレート裏にも理念を記載してケアへの実践に向けて取り組んでいる。理念の他に事業所の方針も打ち出しており、ケアマネジメントの実践や安心と安全な生活が送れる環境作りに向けた話し合いを繰り返し行なっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し清掃活動等に参加している。又、近くの保育園児による慰問や、夏祭りに地域住民の方に来ていただいて交流を図っている。	自治会に加入しており、事業所の行事の際には行事の案内を回覧板で地域に案内している。忠元公園で行なわれているゲートボールに参加したり、保育園児による年1回の七夕会や和太鼓の慰問などもあり地域住民との交流は盛んである。また散歩時には地域の方々と挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	慰問や夏祭りの行事に参加していただいたり、ホームの新聞を配布して認知症についての理解を深めていただける機会としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者やご家族、地域、行政の方々から出された意見やアドバイスを、サービスの向上に繋げるようにしている。	会議には入居者代表、家族代表に加え、自治会長や包括支援センター、行政職員が出席し事業所の活動内容や外部評価の報告などを行なっている。メンバーの意見交換は活発に行われ、新しくできる特養の説明やグリーンカーテン設置などに結びついている。外部評価の結果については玄関に置いて誰でも閲覧できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や地域密着型サービス連絡会などで事業所の実情を伝えたり、行事にも参加していただき、助言や協力をいただいている。	行政とは介護保険証の更新時や相談事があるとき、また運営推進会議などで顔を合わせて事業所の日々の実情を伝えている。2カ月に1回開催される「グループホーム連絡協議会」でも行政職員と意見を交わすと共に、行政から意見を頂くこともあり、日頃から連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で身体拘束の弊害等について学び、拘束のないケアに努めるようにしている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。身体拘束委員会を設け、言葉による拘束をしないケアや身体拘束廃止に関する研修を年に3回実施している。入所者が外出しそうな様子を察知した時には、職員間で十分な見守りを行ない、時に散歩に付き添うなど入居者個人の気持ちに配慮した対応を心掛けている。また、近所の人にも理解を求め、見守り支援をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、高齢者虐待防止についての理解を深め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を行い制度の理解に努めている。現に福祉サービス利用支援事業を活用されている入居者もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前にご家族や入居希望者に見学に来ていただき、パンフレットや重要事項に基づき説明を行い、納得いただいたうえで入居していただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見要望等が言いやすい雰囲気作りを日頃から心がけている。できる限り意向に沿えるように努めている。	入居者の思いは日常の言動から把握するとともに、日頃接している時の表情などから好きなこと、嫌いなことを汲み取っている。家族に請求書を送付する際に文書やさくら新聞を添えたり、年2回の家族会でも意見をお聞きしている。また、入居者や家族の要望をこまめに聞き取る「要望ノート」を準備しており、積極的に意見の把握に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や個別面談などの他にも、日頃から意見を聞く機会を設けて改善に努めている。	朝礼や毎月の職員会議で意見を聞き取ると共に、年1回の個別面接でも職員個々と丁寧に話し合いを行っている。職員が意見を言いやすいよう日頃からよく話をしたり、年に数回食事会を実施している。更に「連絡ノート」を活用して広く意見を集めて可能な限り職員の意見が反映されるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個別面談を行い意見要望等聞く機会を設けて、職場環境や条件の整備改善が行えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修へ参加できるように支援を行っている。施設内では毎月勉強会を行い、職員のスキルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会へ参加し、勉強会をしたり情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いに寄り添い意向を尊重し、安心して生活していけるような支援が行えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、要望等を伺い、安心してご利用いただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の状況を確認し、適切なサービスが受けられようように柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合っている関係を大切にし、本人ができる範囲で、家事等も一緒にできる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方を歓迎し、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。今までのかかりつけの病院や馴染みの美容院が利用できるよう付き添いを行っている。	これまでの馴染みの関係は「生活習慣ADLの状況」に詳細に記載され、馴染みの美容院やお店などに買い物に出かけられるよう支援している。また、電話や手紙の取り次ぎをはじめ、友人知人の来訪時には、ホールや居室でゆっくりとくつろいで過ごせるようお茶やお菓子を出すなどの配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操やレクリエーション等で入居者同士が交流する機会を設け、お互いを気づかうことができる関係を築いていけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去された方のお見舞いに行き様子を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で思いを把握できるようにしている。又、個別に要望等伺うようにしている。	入居者との関わりを大切に考え接しており、入居者が何をしてほしいのか、何をしたいかなど日頃の言動等から思いを汲み取っている。把握した内容は「連絡ノート」に記入しており、朝礼など申し送り時に確認し情報を共有し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院やケアマネ、ご家族、本人等から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状態を介護記録に記入し、一人ひとりの状態が把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族、主治医、職員からの意見を反映した介護計画を作成している。	日頃の入居者との関わりで得た情報や家族面談時に聞き取った意向を基に、カンファレンスやモニタリングを繰り返し行ない、現状に即した介護計画となるよう随時介護計画を見直している。介護計画作成には、生活や医療的な課題等も盛り込まれ、主治医を含めた関係者の意見が反映されたものとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子やケア内容を記録し、職員間で情報が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、要望に応じて柔軟に対応できるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまで生活して来られた繋がりを大切にし、暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の決定は本人、ご家族の希望に沿っている。必要に応じて受診付き添いし、主治医との連携を図っている。	入居前のかかりつけ医情報を「生活習慣ADLの状況」に記載しており、入居後も可能な限りかかりつけ医を受診できるよう家族と事業所で協力し合い受診を支援している。かかりつけ医とは「主治医・介護支援専門員連絡票」にて情報交換を図り、「介護計画」や「支援経過」に詳細に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、状態変化時には報告相談し、医療機関やご家族へ連絡して適切な受診援助等ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院へ情報提供を行っている。家族とも情報交換を行い回復状態に合わせて退院支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期や重度化した場合の在り方について意向を伺うようにしている。医療的な関わりが多くなった場合は、現段階では対応できない場合もあることとお話ししている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成しており、それを契約時に入居者・家族にくわしく説明している。現在のところ、終末期に対応できる体制は整えられていないが、事業所としては、今後は研修の機会を設けたり、職員の対応力の強化を図るなど、終末期に対する入居者や家族の思いが叶えられるよう環境を整えていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、職員は救命講習を全員が受講できるようにし、急変事の対応ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施している。非常時には地域の方々の協力が得られるように、今後も体制づくりを行っていきたい。</p>	<p>夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施し、今後の改善点や課題について話し合っている。訓練には行政や家族も参加したが、地域住民の参加が得られなかったため、今後も継続して参加を呼び掛けるようにしていく意向である。事業所にはAEDが設置され、職員全員が普通救命講習を受けるなど防災意識は高い。</p>	<p>現在の非常災害時の備蓄が、少量の缶詰だけなので、災害発生時に備えて飲料水や食料、寒さをしのげるような物品等の準備があると安心と思われる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や個性を尊重し、失礼のないよう言動には注意を払っている。	「個人情報に関する基本方針」を基に個人情報保護会議を年2回実施している。また、接遇に関する研修に参加して各職員に伝達するとともに「ヒヤリハット報告書」を詳細に記録するなど、職員間において意識し合い、声を掛け合うなどプライバシーに配慮したケアにつながるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表出できるような対応を行い、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調や本人のペースに合わせて過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身につけるものは本人に決めていただいたり、散髪や爪切り等は定期的実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事にあった食事などが提供できるようにしている。職員と同じテーブルで食事をし、食器の片付けなどできることはしていただけるようにしている。	その日食べたいメニューを入居者に尋ねてから買い物に行くなど、食べたいものが食べられるよう配慮している。おせち料理や桃の節句など行事食にも力を入れており、誕生会では手作りケーキでもてなしている。またそば打ちやギョーザ作りなど入居者と職員が一緒になって取り組み、食への楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、個々にあった食事形態や量を提供できるようにしている。市の管理栄養士から助言をいただく機会も設けるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促している。できない部分は介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるように支援を行っている。	日中はなるべくリハパンツやポータブルトイレを使わないで済むよう、排泄チェック表を活用し、トイレでの排泄を促している。トイレへの誘導の際は、さり気なく声をかけるなど、あからさまな介護にならないよう配慮している。また、排泄チェック表の利用やトイレ誘導については、介護計画に組み込み、職員全員で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、食事の工夫を行い、排便状況の把握を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	午後、個々に合った入浴支援を行っている。希望があれば毎日でも入浴できるようにしている。	基本的には1日おきとしているが、希望があればいつでも入浴できるようにしている。また、季節に合わせてゆず湯や菖蒲湯などを取り入れ楽しんでもらっている。同性介助の希望がある時は、なるべく同性介助できるよう職員を調整し支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休息がとれるようになっている。居室は空調や採光にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個別ファイルに綴りいつでも確認できるようにしている。薬の変更等は連絡ノートに記載したり、申し送りで職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや興味のあることをしていただき、役割を持てる環境づくりや気分転換ができる支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	敷地が広く近くに公園もあるため、天気の良い日には散歩や外気浴を楽しんでいただいている。	買い物など数名の入居者と出かけた時、花見など全員で出かける時は、事業所の保有する車の台数が限られているため職員の車に分乗して出かけている。事業所の敷地は広く、芝生が敷き詰められているため、日常的によく散歩している。また、すぐ近くに桜の名所である忠元公園があるため、散歩がてら外出し外気浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かり金として施設で管理している。希望すればいつでも買物ができるようになっている。希望してお金を所持されている方もおられる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば電話をかけたり、手紙のやり取りが行えるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天井が高くゆったりとした空間が確保されている。季節の花を活けたり、季節の作品を掲示して気持ちよく生活できるようにしている。</p>	<p>玄関を入ると雛人形や季節の花が飾られ四季を感じる事ができ、入居者が作った和紙柄の傘が展示されるなど温かな印象を受ける。土地がら冬はかなり冷え込むため、採光に気を配り、サッシや窓は2重ガラス、床は3層張りにするなど室内を温かく保てるよう工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う同士でホールの席は決めて座っておられる。ホールには畳の間があり、腰掛けて過ごすこともできるようになっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み家具については特に制限はしていない。自宅の延長のように居心地よく暮らしていただけのようにしている。	エアコンやベッド、クローゼット、防炎カーテンが備え付けられており、特にベッドは電動ベッドであり、低反発マットレスを使用するなど安眠できるよう工夫している。また、ナースコールも備え付けられており、夜間や緊急時にも安心して過ごせる環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーでトイレや浴室には手すりや取っ手が取り付けられてあり、安全に自立した生活が送れるように工夫されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を皆で朗読して、理念を確認共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会合、奉仕作業、地域のスポーツ大会などに積極的に参加し地域と交流を図っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	夏祭りや施設発行の新聞などで認知症の理解、当施設の良さをアピールしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、外部から見た当施設の良い点、悪い点などの意見を出してもらい施設運営に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市役所からの介護情報サービスの情報提供や市担当者の運営推進会議への出席、夏祭りへの招待など協力関係を築けるよう努力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内外の勉強会を通して、身体拘束の違法性またやむを得ない場合の対応の仕方などを全員で学習している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置して、委員会を中心に勉強会を開催し全員の意識を高め虐待が無いようまた見過ごされないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内勉強会のテーマで「権利擁護と後見人について」という議題で勉強会を開くなど、必要性を皆で共有し活用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居決定時また解約時に契約について、不安な事、疑問に思うことなど十分なインフォームドコンセントを摂っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱設置でお声を聞き、また運営推進委員会での意見を反映した施設運営をおこなっている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議や個別面談などの他にも、日頃から意見を聞く機会を設けて改善に努めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個別面談を行い、意見要望等聞く機会を設けて、職場環境や条件の整備改善が行えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修へ参加できるように支援を行っている。施設内では毎月勉強会を行い、職員のスキルアップを図っている。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡協議会へ参加し、勉強会をしたり情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク、アセスメントなどで本人の想い、希望を反映できるようサービス計画に取り入れ、支援できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク、アセスメントなどで家族の要望、希望などを聞きだせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人と話し合いやるべき事を見極め対応できる事から支援を始めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者に寄り添うような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は家族の思いや考えを聞き寄り添えるような支援に努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の方と一緒に来ていただいたり、手紙、電話などで連絡が取れるように支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>集団マスゲーム、ラジオ体操など全員参加で交流が出来るように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>病院などの経過を家族に電話してお話を聞き相談やフォローに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思い、希望を踏まえパーソンセンタードケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者ひとりひとりの生活歴を把握し、それぞれの趣味嗜好が活かせるような支援ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活のなかで、健康な生活ができるように出来ることはして貰うようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族の希望・要望を十分聞き作成し、経過記録、担当者会議などで出た課題などを踏まえ、介護計画の見直しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の会議記録を作成して朝礼時に皆で情報を共有し観察して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応して、柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで和太鼓、日本舞踊、保育園児の慰問など地域に協力してもらい入所者が安心、安全な気持ちで生活できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院、協力病院と連携を取り定期受診緊急時の受診など適切な医療を受けられるように援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	看護職の専門技術を生かしてもらい、利用者の何気ないサインを捕らえ、適切な受診ができるようにしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入退院時には、家族との連絡を密にとり病院との情報交換や指示、相談を大切にしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	契約を結ぶ際に、重度化した場合の意見を聞くようにしている。現段階では医療行為が多くなる場合は対応できこともあることをお話している。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	救命講習会の全員受講、職員緊急連絡網の整備、消防訓練など定期的実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連絡方法訓練、火災、水害などの避難場所など自治会長、グループ会社との打合わせはすんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月の勉強会のなかで「人格の尊厳」、「プライバシーの確保」などの勉強を行っているようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者がなにげなく発した言葉や思いを記録しておいて、協働作業や介護計画のなかに取り込むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の支援、援助に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	寝間着、普段着、外出着の着用など生活の変化に対応した支援にこころがけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人のできることできない事を見極めて、手伝いなどをしてもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては十分注意して食事を作り、時々外部の栄養師の助言をもらっている。また摂取量については、毎回チェック記録して過不足のない様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔については、自力で歯磨き、義歯洗浄し、できない人は職員が支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力おむつはしないようにしており、現在おむつ使用している人はいない。また非常時やむ得ないときもできるだけ早くおむつから自立できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように食事の中身にも注意して食事をつくる。また便秘薬などの併用で規則正しい排便ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望があれば毎日でも入浴できる体制は取っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンに合わせ睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、すべて施設管理しており、月別、日別で管理して間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除の手伝い、庭の草取り花壇の手入れ、散歩、買い物、ドライブなど本人の出来る事やりたいことなどを聞いて支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日中の散歩、ドライブなど季節、時間、場所に注意をして、また本人の希望を聞いて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則金銭管理は施設で行っているが、欲しい物や買い物時には、預り金の中から自分で買い物できるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙は本人が希望すればいつでも自由にできる体制にある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>立地環境は非常によい場所を確保している。内部構造も天井、居間、風呂など規定より広く設計してある。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間は十分な広さを確保しており、また天井も高くしてありテレビを見たり、話ができるようにつくられている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、備え付けのエアコン、電動ベッド、クローゼットなど用意しており、持ち込み家具などは自由にレイアウトできる。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内は、非常口、トイレ、ふろなど分かり易い表示がしてあり、壁には手すりを取り付けてあり自立した生活が送れるように工夫されている。</p>		/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない